

望ましい小学校の環境とは？

平成24年8月に「少子化における多古町学校教育問題懇談会」が立ち上げられ、児童生徒数の急激な減少にあつて、これからの多古町の学校教育における様々な課題を解決していくにはどのような方策が考えられるのかを話し合われてきました。規模の違う小学校の運動会視察やアンケート調査（本紙3月号にアンケート結果掲載）を実施し、学校活動の現状や保護者の考えを踏まえて、これらの問題解決の方向性を見出すために各委員から意見や助言をまとめたものが意見書として町に提出されました。

少子化における多古町学校教育問題懇談会まとめ

1 多古町の小学校の現状と課題

(1) 学校の小規模化と学校運営上の課題

多古町における小学校児童の減少は急速に進んできている。
平成15年度に997名であった本町の児童数は、10年後の平成25年度には601名にまで減少した。この10年間で実に400名もの児童数の減少であった。今後減少傾向は緩やかになるものの、平成30年度には533名に減少する見込みである。
すでに常磐小学校と多古第二小学校

3 おわりに

急激に進行する多古町の少子化と子どもたちを取り巻く社会環境の変化にあつて、教育効果を高め新しい時代をたくましく生き抜く「生きる力」を育むために学校の統廃合は避けて通れない課題である。

多古町は町域が広く、各地区の人口動態も一様ではなく、各学区独自の歴史の上に今日がある。また、新しく多古台開発も具体的に動き出した。
今後、多古町の目指す将来像を見据えた上、特に次の3点にご留意いただき、これからの学校づくりを進めていただきたい。

- ① 望ましい学級規模・学校規模
- ② 地域性の考慮
- ③ アンケート調査結果

少子化における多古町学校教育問題懇談会構成委員

- 各小中学校長 6名
- 多古幼稚園長（第一小学校長兼務）
- 多古町PTA連絡協議会会長・副会長 3名
- 多古町区長会各地区役員 4名
- 識見を有する者（元教育長）1名

には複式学級編制の学年が生じており、両校とも正規の標準学級は5学級になっている。このまま児童の減少傾向が進むと、これ以外の小学校の小規模化も見込まれる状況にある。

急激に進む学校の小規模化は学校運営にも多くの課題を投げかけてきている。学校現場では、教師の多忙化が一層進み、教師一人ひとりの校務分掌も多く学習指導・学級経営のきめ細かさを難しくしてきている。また、教師集団で共通テーマのもと、実践を積み上げて教育活動を創造していく時間的なゆとりがなくなつてきている。それにつれて、学校の特色ある教科経営や生徒指導をすすめることも難しくなってきた。しいては教育力の低下も懸念される。

(2) 学校の小規模化と児童の指導上の課題

児童数の急激な減少は、学校の小規模化・学級の少人数化を進行させるとともに、指導上の課題を提起してきている。

学級の少人数化は、一人ひとりの児童生徒にきめ細かな指導を可能にする反面、学級内の児童の序列化を生む可能性があり、互いに切磋琢磨して学び合う学習の厳しさが失われる傾向もみられる。また、体育や音楽など一定の人数を必要とする学習活動が学級独自ではできないなど学習活動の制約も受けるようになってきた。そのため、児

童の個性が発揮される機会ともなっている各種競技大会やコンクール等の出場が難しくなっている学校も出てきた。

また、対人関係が狭くなるため自分の思いや考えを表現するコミュニケーション能力の不足も懸念される。

更に、児童の生徒指導の面からは、学級編制替えができない学校がほとんどであり、学級編制替えも視野に入れた指導の多様化という面からの制約もある。

2 望ましい学校規模と学級編制

この懇談会で最も重要視したのは、学校規模と学級編制の問題であった。学校規模の異なる久賀小学校と多古第二小学校の運動会を視察し、実際に児童の活動の様子を視察するとともに、多くの時間を費やして望ましい学校規模と学級編制について協議した。

(1) 望ましい学級規模

一人ひとりの子どもに目の届く生徒指導、一人ひとりの学習到達度を確かめながらの学習指導ができる学級集団は何人くらいが適当なのか。また、子どもが協力し合つて学び合う学習活動を組織するために適当な人数や体育活動のゲームの展開に必要な人数等総合的に考えて望ましい学級規模を考え

懇談会を振り返って

懇談会会長 木下 操



教育問題懇談会のまとめを読み返しながら思うことがあります。教育効果を高めるという視点から学校の適正規模について多くの時間を費やしました。しかし、学校は子どもの教育の場だけではなく、各学区の皆さんの心の財産でもあるのです。
今後、多古町の少子化の進行に伴つて学校統合は避けては通れない問題です。しかし、学校統合にあたっては各学区の考え方や地域性に配慮した取り組みを忘れてはなりません。

特に、学級内での人間関係に不適応を起こした子どもの適応指導を必要とする児童が多くなつてきたこともあり、これら児童の指導に当たつて学級編制替えをすることが一つの有効手段であることが学校現場の委員から強調された。

また、学習指導の質的效果を高めるためには、良好な競争心を育ていくことも有効であり、学級間の交流を図ることによって学習効果をより高めることも期待できることから、各学年が2学級以上の編制となることを理想とした。

